

6年間の活動を振り返って（部長：清水萌子さん）

私が6年間このユネスコ（・YWCA）部で災害に関する活動が続ける中で、本当に“備え”こそが最大の武器であることを学びました。いつ来るかも分からない災害に対して備えることは、時として必要意義に疑問を持つ方がいるかもしれません。しかし、そんな災害に備えることこそが自分を守るためだけでなく、家族、友達といった大切な人を守るために繋がる。そして、人々の防災意識が上れば地域、企業、国といった社会を取り巻く重要な存在をも巻き込み、さらなる防災の強化へと繋がっていきます。

東日本大地震から今年で14年が経ちました。そして昨年には能登半島地震が起こり、再び災害の恐ろしさや備えの必要性を認識することとなったのではないのでしょうか。南海トラフ地震の発生率は「30年以内で80%程度」といわれている中、もはや災害のリスクなしに生活を送ることはできなくなった今の状況で皆さんには何ができるでしょうか。

その答えをユネスコ（・YWCA）部の後輩の皆さんが、これからも発信してくれることを期待しています。皆さんの活動には多くの命を災害から守る力があります。一人でも多くの生徒や教職員の皆さんの意識を高め、行動へと導く役割となることを願っています。

私は大学で国際系の学部に進み、国内だけでなく国際的なボランティア活動も行えたらと思っています。大学には国際ボランティアサークルのようなさまざまなボランティアサークルが存在し、防災共育サークルと災害に関するものもあります。この部活で学んだことを活かし、さらにステップアップした支援を行うことが大学での目標です。皆さんも是非、ユネスコ（・YWCA）部でさまざまな活動を通して知識や興味の幅を広げてくれたらと思います！

（左）雨の日の11円募金

（右）人と未来防災センターにて「衝撃実験体験」



ワークショップに参加しました！国際女性デーとアドボカシー活動

3月7日に、京都YWCAで本校のユネスコ部と同志社女子中高YWCA部と合同のRise Upワークショップに参加しました。各校の活動報告を共有した後、「国際女性デー」に関する社会運動について一緒に学びました。ニュースや普段考えている問題をみんなで並べて「アドボカシー活動」のさまざまな方法を知りました。自分の考えを広く訴えることができるように、SNSを通じて自分たちのメッセージを主張することができました。





東日本大震災から 14 年

大災害が起こったときに役立つメ

ディアは？ 8 つの媒体の長所と短所

～産経新聞 3月8日付 より～

震災時におけるメディアは、情報収集や対応の要として極めて重要な役割を果たします。テレビやラジオは信頼性が高く、避難指示や被害状況を迅速に伝達します。SNSは即時性に優れ、現地の状況や安否確認が可能です。虚偽情報には注意が必要です。新聞は災害後の分析や記録に役立ちます。

また、電力不足時にはラジオが特に有用です。それぞれのメディアを適切に組み合わせることで、迅速かつ正確な情報取得が可能となり、災害時の冷静な対応を助けます。

メディアの活用は、命を守る手段として欠かせないものです。防災キッドを準備する際、こういった視点も持ち合わせたいものです！！



多様なメディアと特徴



ご報告

2024年度も最終号の轍となりました。この一年、11円募金にご協力頂きありがとうございました。また宗教センターよりクリスマス献金、ミルトスコースよりクリスマスマーケット献金からご援助を頂きました。今後とも、東日本の被災地をはじめ、自然災害に罹災して困っておられる方々との繋がりを大切に、活動できるよう励んでまいります。来年度も部員一同がんばりますので、何卒ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

